

切り替え以前の約2倍になった。その原因は

▼月山ダム建設工事費が当初計画780億円が、完成時には1,687億円になった事。

又、庄内南部広域水道の料金算定の基準となる基本水量は、10万9700トンだが、現在の水の使用量は約5万トンで半分にも満たない。現状127万トン年間約2,150万円は市は使っていないのに県に料金を支払っている状態。この水需要の見通しの失敗が、値段の高騰につながった。

▼今、鶴岡市は年約1000人ずつ人口減少する時代となり、水使用量は結局この17年間減少傾向。この傾向は更に続く見通しだ。結局「広域水道事業という制度」が破綻しているのではないか？ 県の責任として「基本水量」の見直しにも踏み込むべきでは？

2) 水質は？

▼水源切り替え後、発ガン性物質 総トリハロメタンの値は、19年最高値で0.062mg/l(基準値0.1)と、以前の地下水源の23.8倍。(平成20年、草島が市議時代に県に改善を求める請願を提出、水質は5倍程度に改善)

▼この夏、市民の声を集め、488人中367人、75.2%の方が「水質が悪化した」「水がまずくなつた」と答えた。浄水器をつける、スーパーの自販機で水を求めるなど水道離れが進む。冬冷たく光熱費負担が高む、住民は水質、水温変化で水道料金高騰の他に2重3重の負担増だ。地下水のブレンドを認めるべきでは？



●高橋企業管理者

今後、給水量の減少が懸念されるが、基本水量の見直しは事業の根幹に影響し難しい。将来の見通しや料金の水準等について、関係市町村と話し合いながら検討する。水質も県民や市町村のニーズを踏まえていく。

全国有数の鶴岡の地下水の保全と活用を。

3月11日以降、放射能に汚染されにくい地下水の水源が見直されている。赤川扇状地の地下水資源は、昭和52年から3年間、東海大学の柴崎達雄先生らが調査し「赤川扇状地の地下水は日量25万トンの持続性補給量がある」とした優秀な水源だ。県条例で米沢市、山形市では、くみ上げ量の届け出義務を設け、管理してきたが、鶴岡の地下水は無秩序の状態だ。「食の文化都市」の重要な要素として鶴岡の地下水資源を山形県の宝と認識し直し「水収支」を把握し保全、利活用する事を求めるがどうか

●佐藤生活環境部長

庄内南部地域をはじめ、地下水資源は県民の生活や産業を支える貴重な資源。外国資本等による森林買収などが発生している今、県としても地下水資源の保全確保について検討を進める。

最上小国川ダムについて

「鮎の効果は22億円/年。ダムの環境破壊で年10億の損失。

▼鮎の漁獲高だけで、年間1億3千万円ある全国屈指の清流最上小国川。この夏、近畿大学水産学科の有路昌彦准教授らに調査を依頼、「小国川の釣り客によって発生している経済効果は直接効果だけでも年間約21.8億円。河川環境や鮎資源の劣化が生じれば、年間10億円、10年で100億規模の経済損失が発生する」との結果。「全国屈指の清流と鮎は、今後の流域のまちづくりの経済を担う試金石であり、更にダム建設投資は新しい価値を生み出さず長期的にみれば流域経済にとってマイナスになる。」と有路先生は言及。

●鹿野県土整備部長は「穴あきダム」ならば鮎に影響がないので損失は想定外と回答。しかし、小国川のような清流河川環境での実証根拠がない事を後日の委員会でも明らかにした。

私は、最新型の穴あきダム 鳥根県「益田川ダム」石川県金沢「辰巳ダム」を視察。どちらも小国川のような清流環境ではなかった。蒲島熊本県知事は同様の穴あきダム計画の川辺川ダムに対し「清流こそ、かけがえのない財産であり守るべき宝」として2008年白紙撤回した。「穴あき」でもダムはダムなのだ。

ダムでは「生命と財産」を守れない。

▼この9月の豪雨災害で和歌山県では3つのダムが治水の役目を果たさず、和歌山県「椿山ダム」がある日高川で死者3名の犠牲をだした。2004年7月の新潟 7.13水害では、ダムが2つもある五十嵐川で堤防が決壊、七千棟以上の床上床下浸水、死者9名の犠牲をだした。

▼水害を教訓に200戸の移転と河道拡幅をおこなった新潟の五十嵐川や遊水池や田んぼダム活用の刈谷田川では今年の豪雨で犠牲者は出さなかった。

▼広範囲での豪雨が発生する傾向の今、効果が限定的で超過洪水時に役に立たないダム治水よりも「どのような洪水であっても人命が失われることを避ける」ダムによらない「総合治水」が良策だ。

▼「小国川ダム」は、ほぼ赤倉温泉地域の旅館数軒だけの治水対策。

- 1) 「頻繁に洪水災害」と県は強調するが、いつも浸水する4件は、内水被害で河川と直接関係ない。
- 2) 県が温泉街の河道内につくった高さ1.7mの堰堤が、土砂を堆積させ、水を流れにくくし、危険にしている。
- 3) 県は温泉に影響するので河床掘削できないと説明するが、温泉調査に関わった山大・川辺教授が「影響しないように掘削できる」と主張している。

▼「治水対策」の検討が「ダムありき」論で終始し「原子カムラ」と同様ではなかったか。嘉田滋賀県知事から、多くの県で国土交通省から出向している部長の下「ダム治水論」で知事周辺の情報を固める傾向がある事を伺った。ダム治水に反論する学者をいれた再検証、公開討論会を提案。

▼滋賀県、熊本県、新潟県は段階的整備やダムに依らない治水策を究極まで積み上げて、総合治水を叶えようとしている。山形県もそれに連帯しダムに依らない治水対策と旅館街の再生を組み合わせ、**「日本一の清流に面した美しい温泉街」を叶える「まちづくり」治水を提案。**

●全国屈指の清流、小国川は、山形、日本の宝と考えます。約100億円もの血税を使い、更に山形の「地域の宝」を失うダム建設をおこなうか。段階的な河川整備等で安全を確保しつつ美しい流域を活かした温泉街を再生させるか正念場です。今後、県民・全国署名活動を展開して参ります。是非ご協力を。

●庄内への風力発電の普及で雇用と経済を。

再生可能エネルギー市場は海外では、農業・産業・ITに続く「第4の革命」という急成長を遂げている。風力発電は、約2万点の部品組み立て産業であり、機械・電気系、土木建設工事と産業・雇用効果が大きい。今、庄内に28基だが、今後の建設が確実に地域の経済、雇用にも貢献する仕組みづくりが大事。庄内での適地は大半が庄内海浜県立自然公園となっているが、立地可能性について、自然保護団体や地域住民と早急に協議する事が必要では？



最新型の穴あきダム「辰巳ダム」「穴あき」でもダムはダム。

キリトリ線

郵便はがき

料金受取人払郵便

9 9 7 8 7 9 0

鶴岡支店承認

161

山形県鶴岡市道田町21-29
草島進一 事務所 行

差出有効期間
平成24年3月
30日まで
切手不要



今後のお知らせ等をお送りさせていただきます。

氏名 _____

住所 _____

電話 _____ FAX _____

メールアドレス _____

一言。ご自由にどうぞ